

# 研究室から

【山形県立保健医療大学看護学科】

助手 渡 會 睦 子



「性教育」と聞いて、皆さんは何を連想するだろうか。私を含めて大人は十分な性教育を受けることが出来なかった世代であるため、大人が考える性教育は往々にして、性行為（セックス）教育のイメージが強い。だが、「性」は立心偏の「心」に、「生きる・命」などの意味を持つ「生」と書く。このことから、「性」教育は「生」教育でもあることが予測できるであろう。性教育は心と体についてバランスよく学ぶことができこそ、真の性教育となっていくのである。

## 性感染症予防と(性生)教育

これまで私は性感染症予防に主眼を置いた性教育を実施してきた。性感染症とは、性行為（キスなども含む）などで感染する病気の総称で、以前は性病と呼ばれていた。性感染症予防にはよくコンドームが用いられる。確かにコンドームはエイズの感染確率を下げる

が、オーラルセックス（口での性行為）などでもコンドームを使用しないと感染を防ぐことは出来ない。さらに、キスでも感染する梅毒、オーラルセックスで感染する性器クラミジア感染症や淋病、病巣と接触することで感染する尖圭コンジローマ、一緒の布団に入っているだけでも感染する毛じらみなど、コンドームを用いても予防できないものが多くある。現代は、感染予防するためには、性行為の前にお互いに検査を受けることが重要な時代なのである。では、そのためにはどのような性教育が必要なのだろうか。

## 性の教育は心と生教育

### 心と体の(性生)教育

私はこれまで、子供から大人まで約五千件の性の相談を受けてきた。その中にはこのような相談も多くあった。「相手が性感染症だと知っていたけど、性行為を断ったら嫌われると思って」と、性感染症をうつされた少女たち。女性は感情で動いていたが、男性は性感染症をうつしてもいい相手と割り切っていた。女性が強くなったと言われる時代だが、女性が感情で動く以上、性についてはなかなか強くなれないようだ。これは思春期の自尊

### 性感染症予防

「からだの清潔」  
「自分を大切にすること」  
「家族」「生命」「道徳」  
「男女の心の平等」  
「妊娠」「性感染症」  
「避妊」「性感染症予防」  
「不妊」etc.



### 決定力・判断力を養う

正しい情報を得、誤った情報を判断できる。自分を大切にすることの意味を理解し、決定・行動できる。

心の低さなのか？ただ単に知識がないためなのか？さまざまな要素が絡み合っている。

男女の脳はもともと違う面がある。簡単に表現すると、男性の脳は「相手を大切にしたい」などの感情によって性欲をコントロールするのに対し、女性の脳は「相手に触れていたい」などの感情によって性欲がでてる。

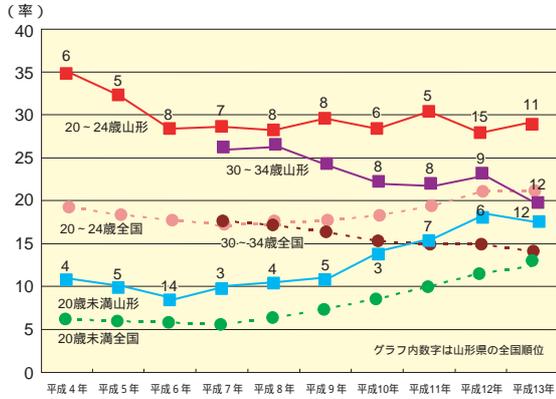
私は性教育において、思春期の心と体を守るために、中学生に男女の脳の違いや性感染症について説明している。子どもたちは「好き同士だからこそ、お互いを傷つけないように話し合い、お互いの心と体も大切にしなければならぬ」ということを理解してくれる。子どもたちは、このような心と体の関係を説明しただけでも、行動変容が可能となる。しかし、実は説明しても行動変容が困難なのは、誤った知識をたくさん持っている大人なのである。

高校生に今までの性教育の不足部分をあげてもらおうと、「男女の体、異性の心理、避妊法や性感染症について足りない」大人の言うこととは、言葉を濁して意味がわからない「などで大半を占める。なぜ性経験する前に性感染症について教えてくれなかったのか」と訴えてくる高校生も多く、これが性行為経験率が高校三年女子で五〇％近い山形の現状である（男子は三〇％未満）。

子供たちは、「体」「清潔」「自分を大切にすること」「生命」「男女の心の平等」「妊娠」「中絶」「性感染症」「不妊」など、幼いころから段階を踏んで真実をはっきりと伝えることによって、おのずと「自分の体は自分で守らなければならない」ことに気付く。

性教育は、「自然に覚えるまで教えない方がよい」という人も多いが、これは、心と体の性(生)教育を理解した言葉だろうか。子どもがすべてを自然に覚えるためには心や体への傷が生じることもあるだろう。また、大人が最も嫌がる雑誌や友人、先輩に頼ることもあるだろう。情報がはん濫する世の中で、情報を抑えることは困難である。ただし、誤った情報が一度入ると、その情報をくつがえすためには、何倍もの正確な情報が必要になる。だからこそ、大人が子どもに「自分を大切にしてほしい」と願うなら、その理由を言葉濁さず伝え、話し合っしてほしい。

人工妊娠中絶実施率



大人が変わって子どもも変わる

性はまだまだタブー視されがちであり、そのタブー視が、山形の悲しい現状を作っている。山形の十代人工妊娠中絶率は全国で平成十年三位、平成十三年は十二位(中絶率は平成十年より上昇)、二十代、三十代の中絶率もワーストクラスである(高いと思いついている関東地区の妊娠中絶率は毎年全国で四十位くらいである)。スポーツで全国三位を取るのとは大変なのに何とも皮肉な結果だ。また、山形県の人工妊娠中絶率が年代に関係なく全国でもワーストクラスなのは、大人になるにしたがって、男女の脳の違いを経験として理解できる人もいるが、「我慢する方が女らしい」「時には暴力的になっても無口でいるのが男らしい」など、さまざまな価値観が邪魔をして性について話し合つことができず、「女性は自分を自分で守る」「男性は女性を守る」意識が乏しくなってしまうことが大きな原因になっているようだ。

この現象は、中学・高校生の性意識、行動にも現れている。子どもは親をみて、親の男性らしさ、女性らしさを学ぶので当然の結果でもある。家庭での性教育は、夫婦間での思いやりから始まっていることを忘れないでほしい。今こそ、このような時代だからこそ、大人の性への価値観を変えることで、子どもの価値観を変えていきたいと思う。

大人の言葉で伝える性(生)教育教材

これまで性(生)教育を進めてきた過程で、学校での各発達段階に応じた内容のシステム化、教材の開発が必要であることがわかった。

\* PNYでは、小学一年生から中学三年生までの性教育教材として、各学年用教材・指導内容を作成した。これは、パソコン用スライド作成ソフト「パワーポイント(PowerPoint)」を用い、アンケート調査から得た実態や、講演後のメール相談に多い悩みについても盛り込んで作成した。今後は、大人への性(生)教育教材、家庭で出来る性(生)教育教材についても検討していきたい。

大人は、正しい性教育を受けてくることができなかつた年代であるが、自分を大切にすることを「本当の意味を理解し伝える」ことができる。性(生)教育を定着させるには、まだまだ問題が山積みである。しかし、これからも、大人が子どもに伝えていく性(生)教育を検討し、山形の性感染症、人工妊娠中絶などの性問題が改善していくことを目標に尽力していきたい。

\* PNY (Peer Network Yamagata) 代表 PWA (HIV/AIDSと共に生きる人々)・NGO・NPO・医療関係者・行政・PTA・学生などさまざまな立場のメンバーが、HIV、AIDS、STD(性感染症)などについてPeer(対等、仲間、立場が同様)な関係で効果的な対策を検討していくために、一九九九年八月に結成。今年度は性教育プログラム・性教育教材(CD-ROM)が日本家族計画協会から出版予定。

渡會 睦子 (わたらい・むつこ)

山形県立保健医療大学助手 (地域看護学・感染看護学) PNY代表。1994年山形県保健師として入職し、1996年より山形県保健所で感染症やHIV等の相談窓口を担当。2001年から現職。